

出土した遺物 (いぶつ)

ここでは、2号墳から出土したものの一部をご紹介します。

埴輪が出土!



周溝から埴輪がみつかりました (北から)



↑ 格子状の記号

筒状の形をしていることから「円筒埴輪 (えんとうはにわ)」といわれる埴輪です。周溝から出土しましたが、もともとは古墳墳丘 (ふんきゅう) に立て並べたものでしょう。円筒埴輪は、埴輪を焼く前に記号をほることが多いのですが、2号墳の埴輪にはこのような8本程の線を格子状に組み合わせた記号が見られます。

鉄剣が出土!



土を慎重にどけていきます



出土した鉄剣

古墳墳丘に掘られた長さ約2.6メートル・幅約45センチメートルの細長い土坑から出土しました。この土坑からは他のものは出土していないこと、また人を埋葬するには幅がせま過ぎることなどから、埋葬した人へ後からお供えしたものと考えられます。

須恵器が出土!



出土したようす (北から)



須恵器甕

周溝から、上下逆になった状態で甕 (はそう) が見つかりました。甕とは、花瓶のような形をしたものが一般的で、体の部分には穴が開いています。この穴に竹などを挿し、中にある液体を注いだと考えられています。お酒などを入れてお供えしたのでしょうか。

まとめ

にんごう古墳群は、5世紀後半という周辺の古墳の中でも古い時期につくられた2号墳をきっかけにつくられはじめました。また、この2号墳は、周囲を見渡すことの出来る最も高い場所を選んでつくられています。しかし、これら周辺のたくさんの古墳に対して、同じ時期の人々が暮らした建物の跡は、蔵田 (ぞうた) 遺跡からにんごう2・8号墳とほぼ同時期の建物跡2棟と土器が見つかる程度で、その他は替田 (かえだ) 遺跡・立花堂 (たちばなどう) 遺跡で溝などが、神戸 (かんべ) 遺跡・里前 (さとまえ) 遺跡・養老 (ようろう) 遺跡などでわずかに土器が見つかる程度です。これらの古墳に埋葬された人々はどこで暮らしていたのかは、今後の検討課題と言えます。

そして、今回の調査では、にんごう古墳群がつくられたこの丘陵で、縄文時代の人々が活動していた可能性が出てきました。このように、人々の活動が古い時期から行われていたことが考えられ、この地域の歴史に新たなページを加える成果となりました。

中勢道路 調査ニュース No.58

2013.3

Chusei News Letter No.58, Archaeological Properties Center of Mie Prefecture

三重県埋蔵文化財センター 中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所
〒515-0325 多気郡明和町竹川503 〒515-2316 松阪市壇野川北町471
TEL 0596(52)1732 FAX 0596(52)7035 TEL 0598(42)7960 FAX 0598(42)7961
E-mail:maibun@pref.mie.jp
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/

にんごう古墳群発掘調査

調査面積: 2,919㎡
調査期間: 平成24年7月9日~25日、8月16日~平成25年2月22日
調査委託: 国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所
調査担当: 三重県埋蔵文化財センター

はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、一般国道23号線中勢道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を昭和63年度から行っています。今回は、平成24年度に行ったにんごう古墳群 (津市大字神戸) の発掘調査成果をご紹介します。

にんごう古墳群は、津市中央部を流れる岩田川の南に広がる半田丘陵上にあります。この半田丘



にんごう古墳群 (西上空から)

陵から西の旧安濃町の丘陵上には、古墳時代後期 (6世紀、今からおよそ1,400~1,500年前) に数多くの古墳がつくられ、三重県の中でも古墳が集中する地域のひとつです。にんごう古墳群のすぐ北の住宅団地を造成する際にも、鎌切 (かまきり) 古墳群・稲葉 (いなば) 古墳群の調査が行われました。調査の結果、前方後円墳 (ぜんぽうこうえんぶん) 1基・円墳 (えんぶん) 8基から、埴輪 (はにわ) や須恵器 (すえき)、鉄製馬具 (ばぐ) や武器 (ぶき) などが出土しています。

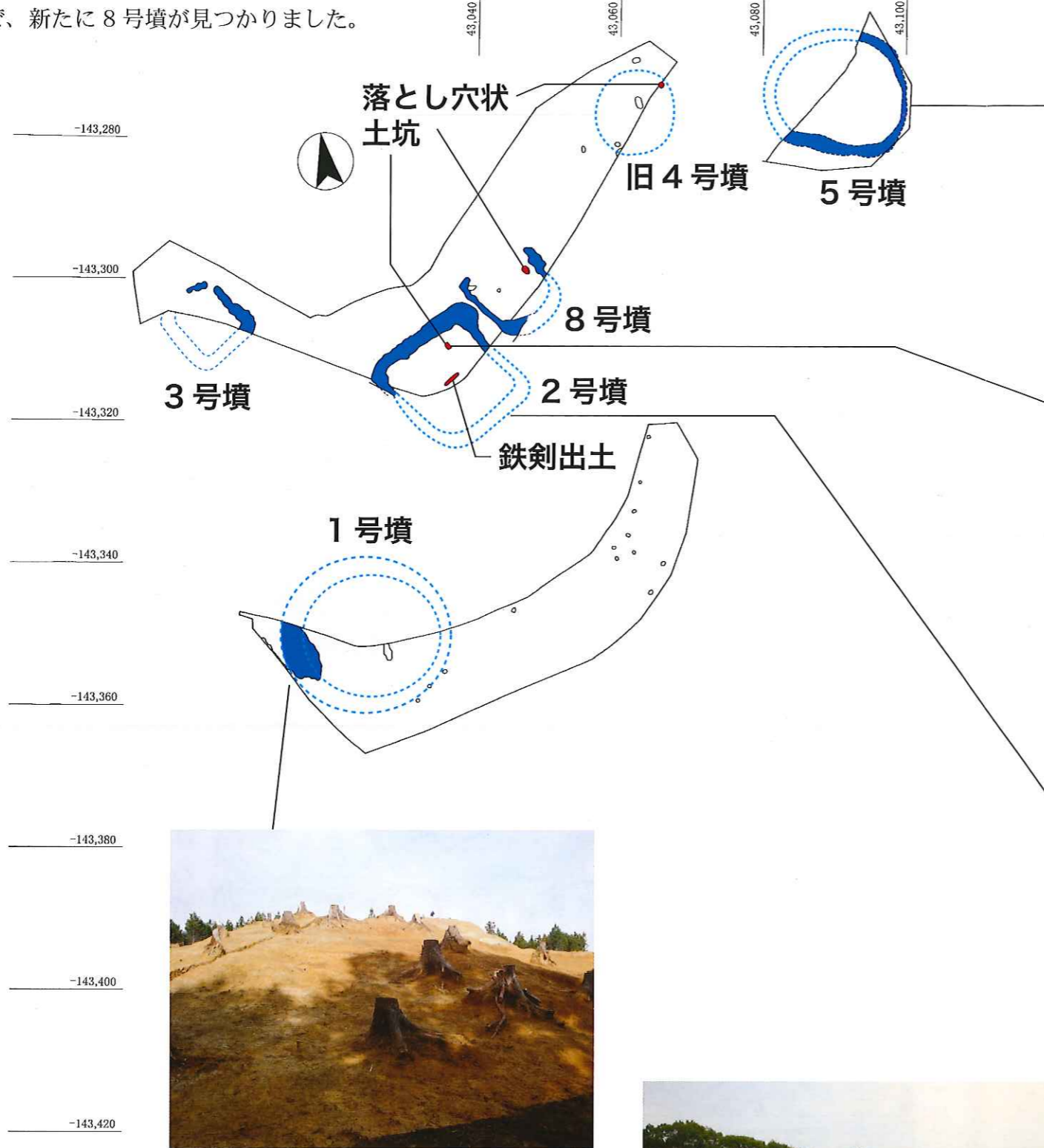


にんごう古墳群とその周辺の遺跡 (実際の1:25,000の大きさに縮小しています。)

【国土地理院『津西部』『津東部』1:25,000より】

調査で見つかった遺構（いこう）【人々の活動の跡】

当初、古墳 6 基の調査が予想されました。しかし調査の結果、そのうち 4 号墳は古墳ではなく自然の地形で、新たに 8 号墳が見つかりました。



1号墳のようす（南から）

1号墳—須恵器を供えた古墳—

自然地形の一部を溝で区切ってつくられた直径約 14 メートルの円墳です。中央の浅い土坑（どこう）【穴のこと】から見つかった須恵器杯蓋（つきふた）2 点の特徴から、7 世紀前半（今から約 1,400 年前）につくられた古墳であることが分かりました。



7号墳のようす（西から）



5号墳（南から）



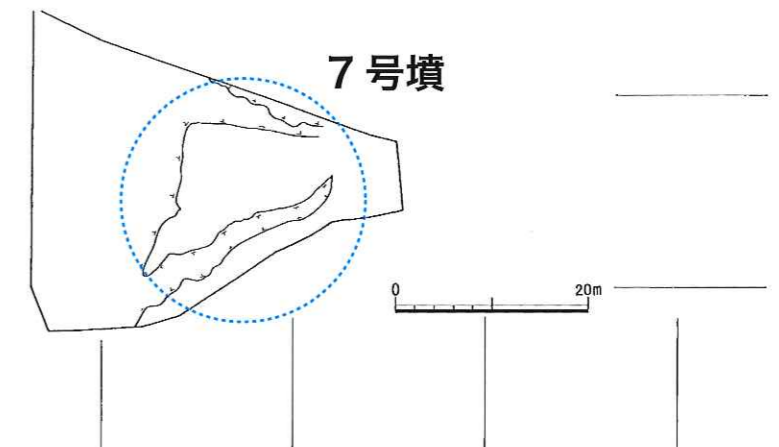
2号墳の墳丘盛土下から見つかった土坑（西から）



2号墳のようす（北から）

7号墳—離れてつくられた古墳—

1～5、8号墳とは谷をはさんだ南の尾根上につくられた古墳です。全体がすでに壊れていたため形や大きさは分かりませんが、1号墳や5号墳のように自然地形に手を加えるなどしてつくられた古墳と考えられます。



7号墳

にんごう古墳群平面図（実際の 1：800 の大きさ。各調査区の位置は、実際と同じものです。）

5号墳—丸い古墳・円墳—

自然地形の一部を溝で区切ってつくられた古墳です。直径約 20 メートルの円墳で、出土した須恵器から 7 世紀前半（今から約 1,400 年前）の古墳と考えられます。

落とし穴状土坑—獲物を捕まえた!?!—

長方形 2 基・円形 1 基の、3 基の土坑（どこう）【穴のこと】が見つかりました。出土遺物はありませんでしたが、そのうち 1 基が 2 号墳の墳丘盛土を取りのぞいた下から見つかったことから、2 号墳のつくられた 5 世紀後半と同じかそれより古い時代のものであるということがわかりました。大きさは、長さ約 1 メートル×幅約 60 センチメートル・深さ約 40 センチメートルで、他の遺跡の例から、シカやイノシシなどを捕まえるために掘った縄文時代の落とし穴である可能性があります。

2号墳—古墳群でもっとも古い古墳—

にんごう古墳群の中で最も高い場所につくられた古墳です。古墳の形は四角で【「方墳（ほうふん）」といいます】、一辺約 17 メートルの大きさです。古墳の周りにめぐる溝【周溝（しゅうこう）】からは須恵器とたくさんの埴輪（はろ）が見つっています。また、墳丘（ふんきゅう）の土坑（どこう）【穴のこと】から鉄剣（てっけん）1 点が出土しました。5 世紀後半（今から約 1,550 年前）につくられた古墳です。